

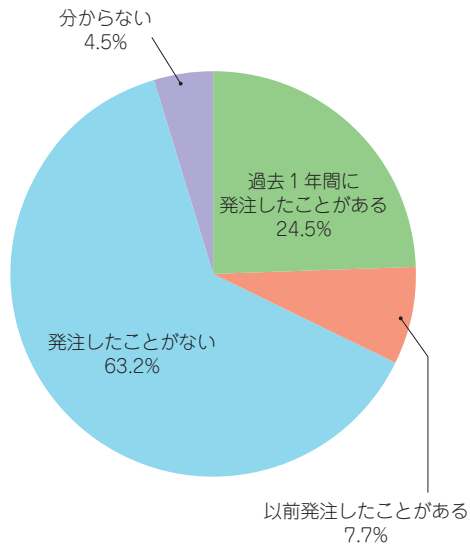
発注者・委託者の実態

1 在宅ワーカーへの発注状況

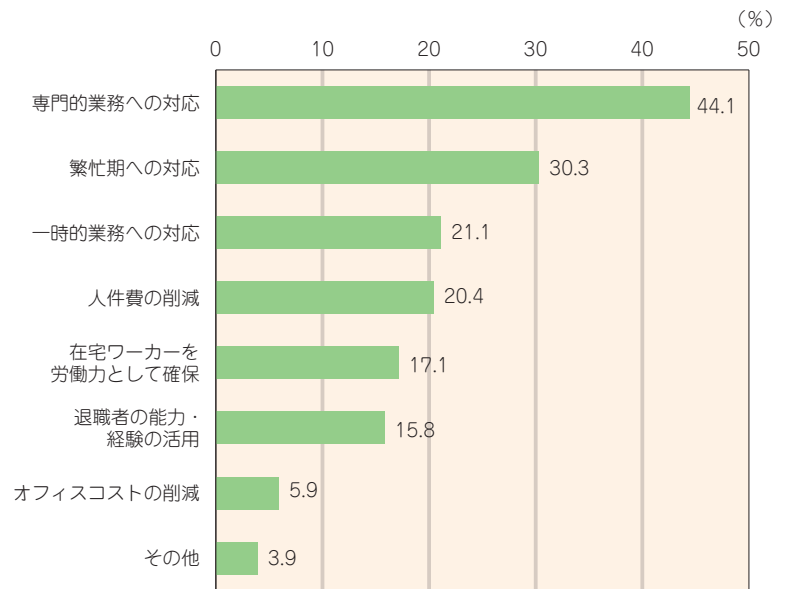
回答企業の24.5%が、過去1年間において在宅ワーカーに直接発注しています。

在宅ワーカーへの発注を始めた理由については、「専門的業務への対応」(44.1%)が最も多く、次いで「繁忙期への対応」(30.3%)となっています。

在宅就業者に直接仕事を発注したか
(過去1年間/それ以前)



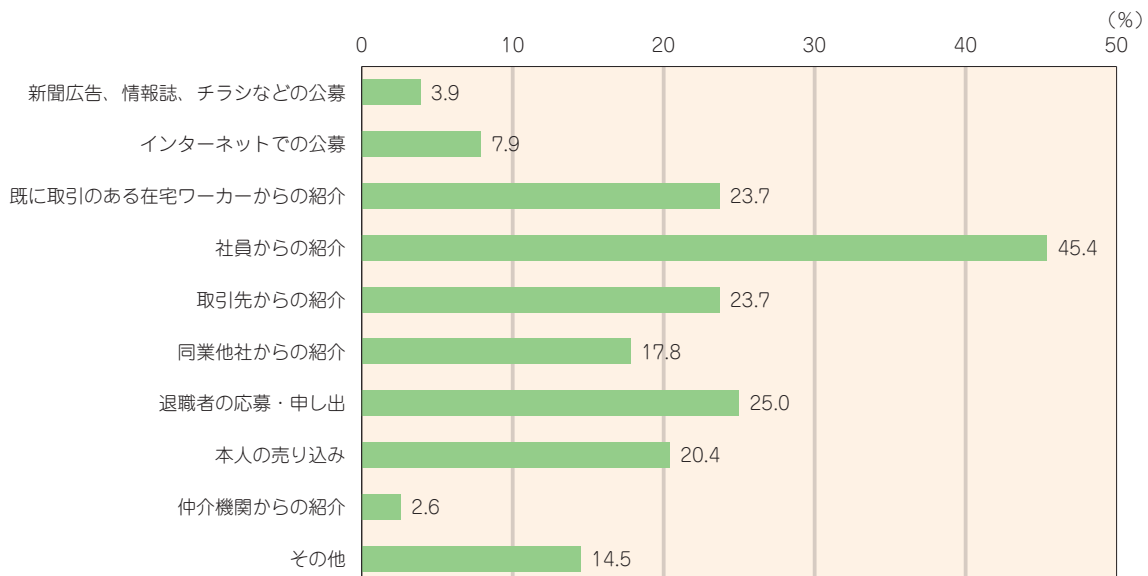
在宅就業者へ仕事の発注を始めた理由 (複数回答)



2 在宅ワーカーの募集方法

在宅ワーカーの募集方法については、「社員からの紹介」(45.4%)が最も多く、次いで、「退職者の応募・申し出」(25.0%)、「既に取り引のある在宅ワーカーからの紹介」(23.7%)、「取引先からの紹介」(23.7%)となっています。

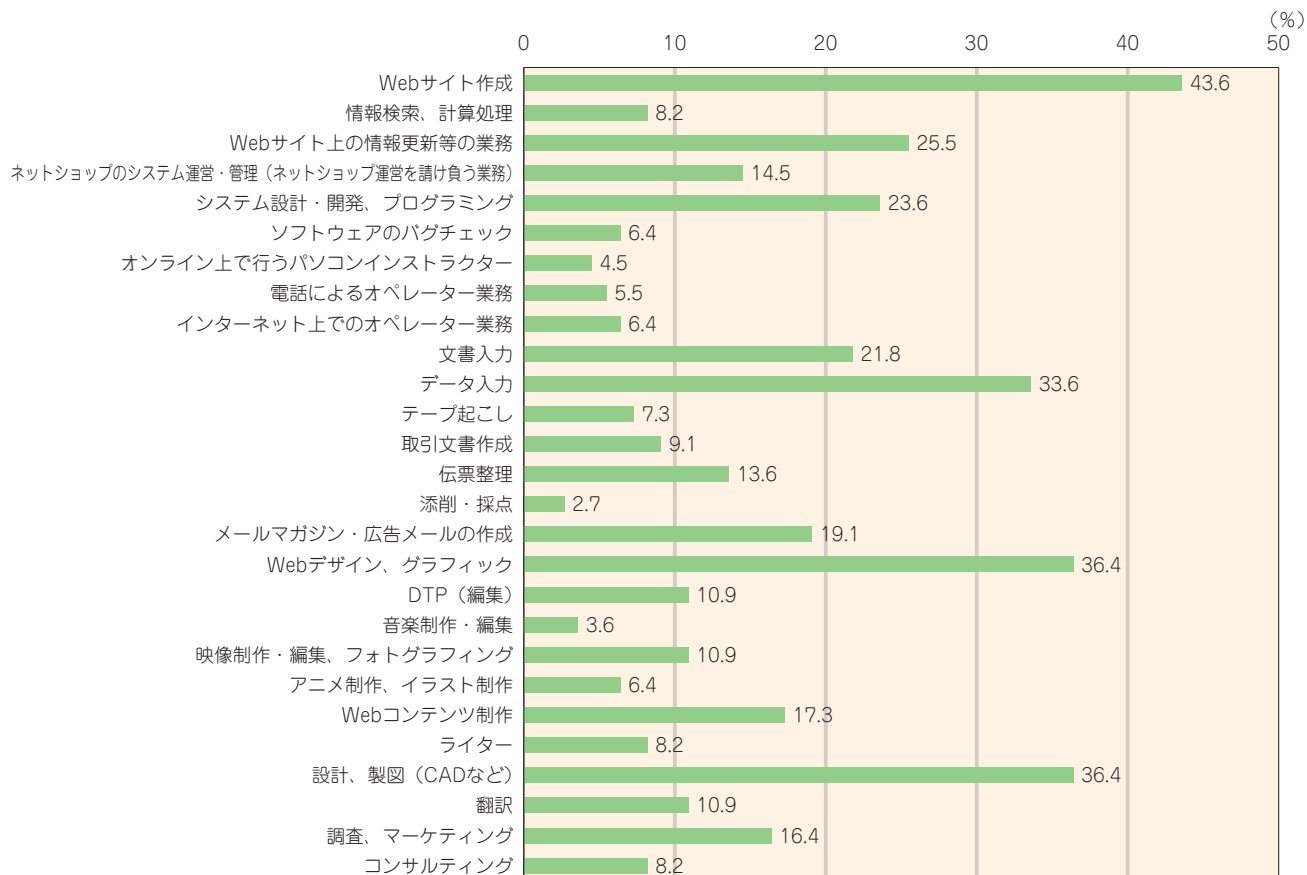
仕事を発注する在宅ワーカーの募集方法 (複数回答)



3 在宅ワーカーに発注する可能性のある（発注している）仕事

在宅ワーカーに発注する可能性のある（発注している）仕事の内容については、「Webサイト作成」（43.6%）が最も多く、次いで「Webデザイン、グラフィック」及び「設計、製図（CADなど）」（36.4%）、「データ入力」（33.6%）となっています。

在宅ワーカーに発注する可能性のある（発注している）仕事（複数回答）



4 今後の発注見通し

今後の在宅ワーカーへの発注量についての見通しについては、「現状維持」が39.5%と最も多く、「増やしたい」（9.9%）、「やや増やしたい」（15.1%）と合わせると、今後の在宅ワーカーへの発注量を「増やしたい、現状維持」とする企業は64.5%と6割を超えます。

今後の在宅ワーカーへの発注についての見通し

